

平成29年度「東京都年次財務報告書」の概要

平成29年度普通会計決算の概要

報告書P1～

- 実質収支は1,253億円の黒字
→ 将来を見据えて無駄の排除を一層徹底するなど、不断の改革を進めたことによるもの
- 経常収支比率及び公債費負担比率は低い水準（財政の弾力性が高い状況）を維持

<決算収支等> (単位：億円、%)

| 区 分 | 29年度 | 28年度 | 増減額 | 増減率 |
|--------------|--------|--------|---------|-------|
| 歳入総額 (A) | 73,044 | 71,225 | 1,819 | 2.6 |
| 歳出総額 (B) | 68,275 | 67,439 | 836 | 1.2 |
| 形式収支 (C=A-B) | 4,769 | 3,786 | 983 | - |
| 繰り越すべき財源 (D) | 3,516 | 2,494 | 1,022 | - |
| 実質収支 (C-D) | 1,253 | 1,292 | △ 39 | - |
| 経常収支比率 | 82.2 | 79.6 | - | - |
| 公債費負担比率 | 8.5 | 7.3 | - | - |
| 都債現在高 | 43,050 | 46,547 | △ 3,497 | △ 7.5 |

- 実質収支は1,253億円の黒字
- 経常収支比率は**82.2%**
- 公債費負担比率は**8.5%**
- 都債現在高は**7.5%、3,497億円の減**

<歳入> (単位：億円、%)

| 区 分 | 29年度 | 28年度 | 増減額 | 増減率 |
|--------|--------|--------|-------|--------|
| 都 税 | 52,892 | 53,180 | △ 287 | △ 0.5 |
| うち法人二税 | 18,509 | 18,926 | △ 418 | △ 2.2 |
| 地方譲与税 | 2,451 | 2,355 | 96 | 4.1 |
| 国庫支出金 | 3,897 | 3,491 | 406 | 11.6 |
| 都 債 | 1,368 | 1,526 | △ 158 | △ 10.4 |
| その他 | 12,435 | 10,673 | 1,762 | 16.5 |
| 歳入合計 | 73,044 | 71,225 | 1,819 | 2.6 |

- 都税は**0.5%、287億円の減**
・企業収益が低迷した影響等による法人二税の減 など
- 都債は**10.4%、158億円の減**
・財政状況及び後年度の財政負担などを勘案して適切に活用

<歳出> (単位：億円、%)

| 区 分 | 29年度 | 28年度 | 増減額 | 増減率 |
|--------|--------|--------|-------|-------|
| 一般歳出 | 46,614 | 45,920 | 694 | 1.5 |
| 人件費 | 14,966 | 14,948 | 18 | 0.1 |
| 投資的経費 | 8,164 | 8,746 | △ 582 | △ 6.7 |
| 補助費等 | 14,347 | 13,554 | 793 | 5.9 |
| その他 | 9,136 | 8,671 | 465 | 5.4 |
| 公債費 | 5,571 | 4,760 | 811 | 17.0 |
| 税連動経費等 | 16,090 | 16,759 | △ 668 | △ 4.0 |
| 歳出合計 | 68,275 | 67,439 | 836 | 1.2 |

- 一般歳出は**1.5%、694億円の増**
・人件費、補助費等の増 など
- 公債費は**17.0%、811億円の増**
・元金償還金の増 など
- 税連動経費等は**4.0%、668億円の減**
・基金への積立金の減 など

<財政健全化法に定める比率> (単位：%)

| 実質赤字比率 | 連結実質赤字比率 | 実質公債費比率 | 将来負担比率 | 資金不足比率 |
|--------|----------|---------|---------|--------|
| - | - | 1.6 | 12.5 | - |
| (5.47) | (10.47) | (25.0) | (400.0) | (20.0) |

- 実質公債費比率は**1.6%**
 - 将来負担比率は**12.5%**
- ⇒ 国の定める基準を下回っている

※1 実質赤字比率、連結実質赤字比率はない。
 ※2 資金不足比率は全公営企業会計においてない。
 ※3 () は早期健全化基準など。

新たな公会計手法による分析

報告書 P13～

<貸借対照表> (単位：億円)

| 科 目 | 29年度 | 28年度 | 増減額 |
|-----------------|---------|---------|---------|
| 資 産 の 部 合 計 | 346,224 | 340,414 | 5,810 |
| うち基金積立金 | 45,616 | 42,415 | 3,200 |
| うちインフラ資産 | 147,209 | 145,983 | 1,226 |
| 負 債 の 部 合 計 | 69,342 | 71,200 | △ 1,857 |
| うち都債 | 58,492 | 60,593 | △ 2,101 |
| 正 味 財 産 の 部 合 計 | 276,882 | 269,213 | 7,668 |
| 負債及び正味財産の部合計 | 346,224 | 340,414 | 5,810 |
| 資産に対する負債の割合 | 20.0% | 20.9% | - |

資産・負債などのストック情報の分析

- 資産は**34兆6,224億円**で前年から増加
・基金積立金の増 など
- 負債は**6兆9,342億円**で前年から減少
・都債の減 など
- 正味財産は**27兆6,882億円**で前年から増加

<行政コスト計算書> (単位：億円)

| 科 目 | 29年度 | 28年度 | 増減額 |
|-------------|--------|--------|---------|
| 通 常 収 支 の 部 | | | |
| 収入合計 | 61,928 | 61,834 | 94 |
| うち地方税 | 52,880 | 53,159 | △ 278 |
| うち国庫支出金 | 3,057 | 2,674 | 382 |
| 費用合計 | 56,255 | 54,281 | 1,973 |
| うち補助費等 | 11,984 | 11,157 | 826 |
| 通 常 収 支 差 額 | 5,673 | 7,553 | △ 1,879 |
| 特 別 収 支 差 額 | 1,202 | △ 132 | 1,335 |
| 当 期 収 支 差 額 | 6,876 | 7,421 | △ 544 |

現金支出を伴わないコストを含めた分析

- 通常収支の部の収入は**94億円の増**
・地方税の減、国庫支出金の増 など
- 通常収支の部の費用は**1,973億円の増**
・補助費等の増 など

<キャッシュ・フロー計算書> (単位：億円)

| 科 目 | 金 額 |
|-------------------|---------|
| 行政サービス活動収支差額 | 8,416 |
| 社会資本整備等投資活動収支差額 | △ 3,907 |
| 行政活動キャッシュ・フロー収支差額 | 4,508 |
| 財務活動収支差額 | △ 3,526 |
| 前年度からの繰越金 | 3,786 |
| 形式収支（翌年度への繰越） | 4,768 |

現金の増減要因の分析

- 行政活動キャッシュ・フロー収支差額は、**4,508億円の収入超過**
- 財務活動収支差額は、**3,526億円の支出超過**

東京都全体の財務諸表

報告書 P39～

<貸借対照表> (単位：億円)

| 科 目 | 29年度 | 28年度 | 増減額 |
|-----------------|---------|---------|---------|
| 資 産 の 部 合 計 | 479,955 | 473,289 | 6,665 |
| I 流動資産 | 31,931 | 29,366 | 2,564 |
| II 固定資産 | 448,023 | 443,921 | 4,101 |
| III 繰延資産 | 0 | 1 | △ 0 |
| 負 債 の 部 合 計 | 143,593 | 146,912 | △ 3,318 |
| I 流動負債 | 12,970 | 12,159 | 811 |
| II 固定負債 | 108,239 | 112,270 | △ 4,030 |
| III 繰延収益 | 22,383 | 22,482 | △ 99 |
| 正 味 財 産 の 部 合 計 | 336,361 | 326,376 | 9,984 |
| 負債及び正味財産の部合計 | 479,955 | 473,289 | 6,665 |

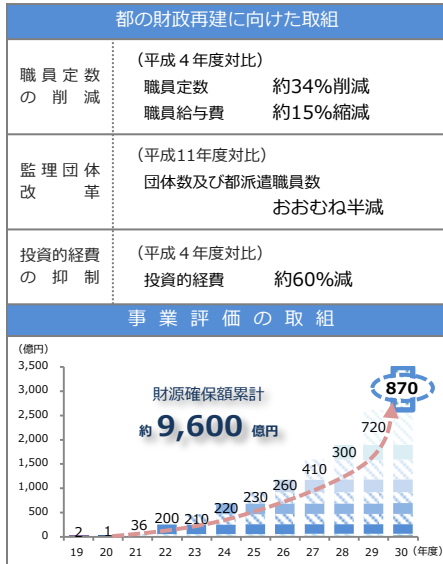
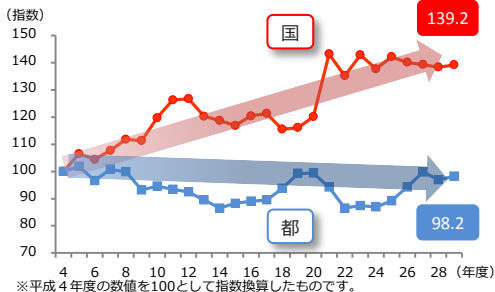
- 対象範囲は、都の全会計（普通会計、「特別会計」及び公営企業会計）と東京都監理団体（33団体）及び地方独立行政法人（3団体）
- 資産は**47兆9,955億円**で前年から増加
- 負債は**14兆3,593億円**で前年から減少
- 正味財産は**33兆6,361億円**で前年から増加

過去の財政運営を振り返るとともに、将来の財政需要を分析することにより、今後の都財政を考える

これまでの都の財政運営

国に先駆けた財政再建の取組及び不断の見直し

- 平成29年度決算の実質収支は1,253億円の黒字であるが、**過去には最大1,000億円を超える赤字**を計上
- 都税収入は景気変動の影響を受けやすい**法人二税の占める割合が高く、普通交付税を受けたことのない都は、他の自治体以上に自立した財政運営が必要**
- 都は、**国に先駆けて財政再建**に取り組み、財政再建達成後も**不断の見直し**を継続



健全な財政運営の実現

基金と都債

- 歳出抑制努力によって、生み出された財源を計画的に基金に積み立てるとともに、**都債残高を大幅に圧縮**

< 財政調整基金 >

基金残高が枯渇
(平成9～11年度)

29年度

将来に備えて積立
(7,165億円確保)

< 都債 >

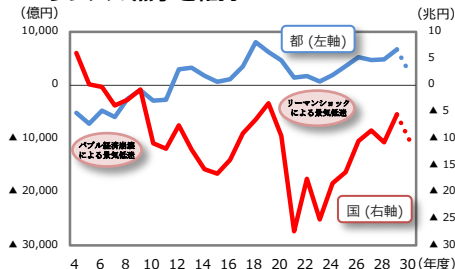
都債残高ピーク
(平成12年度、7.7兆円)

29年度

歳出抑制により
圧縮(▲44%)
⇔ 国は右肩上がり
(約864兆円)

プライマリーバランス

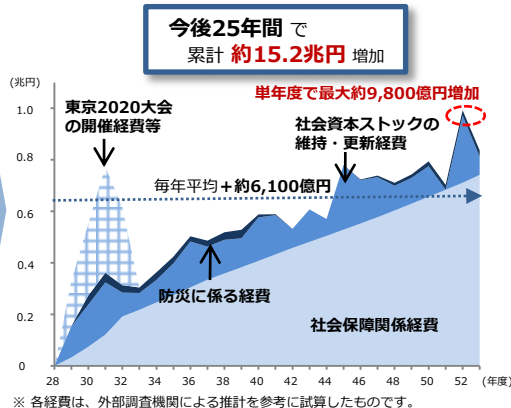
- リーマンショックによる**大幅な減収局面には基金を活用するなど、プライマリーバランスの黒字を維持**



- 将来にわたる施策展開を安定的に行っていくためには、より一層無駄の排除を徹底するなど、自己改革を不断に行い、施策の基盤となる財政対応力を中長期的に堅持していくことが不可欠

都が直面する膨大な財政需要

- 本格的な少子高齢・人口減少社会の到来や、保有施設の急速な老朽化
 - ▶ **社会保障関係経費や社会資本ストックの維持・更新経費の大幅な増加**
- 首都直下地震や局地的な集中豪雨などの発生リスク
 - ▶ **大規模災害に備えた対策を集中的・重点的に進めていく必要**
 - ✓ 木造住宅密集地域の不燃化・耐震化
 - ✓ 豪雨対策 など
- **東京2020大会の成功に向けた取組**



東京への更なる投資の必要性

- 急激な人口減少・少子高齢化に直面する日本が活性化していくためには、**東京が日本の力強いけん引役として、激化する世界の都市間競争に勝ち抜き、日本全体の持続的成長へとつなげていくための施策を積極的に展開していく必要**

＜東京が世界の都市間競争に勝ち抜くための取組例・経済波及効果（外部調査機関による調査結果の一例）＞

| 国際競争力の向上に効果的とされる取組・指標の例 | | 経済波及効果 |
|-------------------------|------------------------------------|-------------|
| 羽田空港の機能強化 | 年間発着枠の拡大（約3.9万回拡大） | 約 7 千億円 |
| 鉄道ネットワークの強化 | 羽田空港アクセス線など 6 路線の整備 | 約 2 兆 5 千億円 |
| 外かく環状道路の整備 | 関越道～東名高速間の整備 | 約 3 兆 9 千億円 |
| 外国企業の誘致・中小企業支援等 | 金融系企業の誘致（約200社誘致）など | 約 1 兆 8 千億円 |
| 外国人旅行者の受入環境の向上等 | 訪都外国人旅行者の誘致（年間約5,000万人誘致）など | 約 1 兆 4 千億円 |
| 道路・鉄道駅等のバリアフリー化 | 駅、生活関連施設等を結ぶ都道のバリアフリー化（約234km整備）など | 約 5 千億円 |
| 再生可能エネルギーの導入促進 | 再生可能エネルギーによる電力利用割合の拡大（約40%に拡大）など | 約 1 兆 3 千億円 |

【今後の財政運営に向けて】

- 東京が抱える課題の解決や東京2020大会の開催準備の総仕上げを着実かつ効率的に進め、東京が成長を生み続けるためには、**強固で弾力的な財政基盤を堅持していく必要**
- 平成31年度税制改正に向け、都の貴重な財源を更に奪う動きが加速しているが、**断じて容認できない**
- 行政にはない新たな発想の活用により、戦略的な施策を積極的に展開するとともに、事業評価について、**コスト・ベネフィットの視点を踏まえた評価を新たに実施するなど、自己改革をより一層推進**
- その上で、**基金や都債を戦略的・計画的に活用し、将来にわたる安定的な財政対応力を堅持し、都政に課せられた使命を確実に果たしていく**